

SIP(戦略的イノベーション創造プログラム)
次世代海洋資源調査技術推進委員会(第7回)
議事要旨

1. 日 時：平成27年12月24日(木) 14:00-16:10
2. 場 所：中央合同庁舎4号館12階 共用1208特別会議室
3. 出席者：(敬称略)

(総合科学技術・イノベーション会議)

- | | | |
|---------|--------|--|
| | 久間 和生 | 常勤議員、SIP ガバニングボード議長 |
| (議長) | 浦辺 徹郎 | プログラムディレクター(PD) |
| (SubPD) | 浦 環 | 九州工業大学社会ロボット具現化センター センター長 特別教授 |
| | 辻本 崇史 | (独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構 理事 |
| | 堀田 平 | 国立研究開発法人海洋研究開発機構 理事 |
| (関係省庁) | 藤田 雅之 | 総合海洋政策本部事務局 参事官 |
| | 清浦 隆 | 文部科学省海洋地球課 課長 |
| | 田守 光洋 | 経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部
鉱物資源課課長補佐(代理出席) |
| | 山内 智生 | 総務省情報通信国際戦略局 宇宙通信政策課 課長 |
| | 河野 順 | 国土交通省海事局海洋・環境政策課 技術企画室 室長 |
| | 小谷野 喜二 | 国土交通省港湾局海洋・環境課 海洋利用開発室 室長 |
| (実施機関) | 木川 栄一 | 国立研究開発法人海洋研究開発機構
海底資源研究開発センター 研究開発センター長 |
| | 磯崎 芳男 | 国立研究開発法人海洋研究開発機構
海洋工学センター センター長 |
| | 池原 研 | 国立研究開発法人産業技術総合研究所
地質調査総合センター研究戦略部 研究企画室 首席研究員 |
| | 矢野 博之 | 国立研究開発法人情報通信研究機構
ワイヤレスネットワーク研究所 所長 |
| | 田村 兼吉 | 国立研究開発法人海上技術安全研究所 研究統括主幹 |
| | 山本 浩 | 国立研究開発法人港湾空港技術研究所 理事 |
| | 河地 正伸 | 国立研究開発法人国立環境研究所
生物・生態系環境研究センター生物資源保存研究推進室 室長 |

(アドバイザー)

- | | | |
|--|-------|-------------------------------------|
| | 竹内 俱佳 | 電気通信大学 名誉教授 |
| | 浅田 昭 | 東京大学生産技術研究所
海洋探査システム連携研究センター長 教授 |
| | 林 謙一郎 | 筑波大学大学院 生命環境科学研究科 地球進化科学専攻 教授 |

(オブザーバー)

文部科学省、経済産業省、総務省、国土交通省・海事局、国土交通省・港湾局、内閣官房総合海洋政策本部事務局、(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機

構、国立研究開発法人海洋研究開発機構、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国立研究開発法人情報通信研究機構、国立研究開発法人海上技術安全研究所、国立研究開発法人港湾空港技術研究所、国立研究開発法人国立環境研究所、(一社)海洋調査協会、次世代海洋資源調査技術研究組合、東京海洋大学、九州大学、横浜国立大学

4. 議事

- (1) 次世代海洋資源調査技術シンポジウム開催報告
- (2) 調査検討ワーキンググループ報告【非公開】
 - ・実施項目1 海洋資源の成因に関する科学的研究 (JAMSTEC)
 - ・実施項目2 ①海洋資源調査システム・運用手法の開発 (J-MARES)
 - ・実施項目2 ②AUV複数運用手法等の技術開発 (海技研)
 - ・実施項目2 ③ROVによる高効率海中システムの開発 (港空研)
 - ・実施項目3 ①海洋生態系観測と変動予測手法の開発 (JAMSTEC、国環研)

【以降は、概要報告】

 - ・実施項目2 ④衛星を活用した高速通信技術の開発 (情通機構)
 - ・実施項目1 海洋資源の成因に関する科学的研究 (産総研)
 - ・実施項目2 ①海洋資源調査システム・運用手法の開発 (海洋調査協会)
 - ・実施項目2 ②AUV複数運用手法等の技術開発 (JAMSTEC)
 - ・実施項目2 ③ROVによる高効率海中システムの開発 (JAMSTEC)
 - ・実施項目3 ②ケーブル式観測システムの開発 (JAMSTEC)
- (3) 戦略策定タスクフォースおよび管理法人知財委員会報告【非公開】
- (4) 年度末評価および平成28年度計画について【非公開】

5. 配布資料

- 資料1-1 『次世代海洋資源調査技術シンポジウム』開催報告
- 資料2-1 実施項目1 海洋資源の成因に関する科学的研究 (JAMSTEC)【非公開】
- 資料2-2 実施項目2 ①海洋資源調査システム・運用手法の開発 (J-MARES)【非公開】
- 資料2-3 実施項目2 ②AUV複数運用手法等の技術開発 (海技研)【非公開】
- 資料2-4 実施項目2 ③ROVによる高効率海中システムの開発 (港空研)【非公開】
- 資料2-5 実施項目3 ①海洋生態系観測と変動予測手法の開発 (JAMSTEC、国環研)【非公開】
- 資料2-6 実施項目2 ④衛星を活用した高速通信技術の開発 (情通機構)【非公開】
- 資料2-7 実施項目1 海洋資源の成因に関する科学的研究 (産総研)【非公開】
- 資料2-8 実施項目2 ①海洋資源調査システム・運用手法の開発 (海洋調査協会)【非公開】
- 資料2-9 実施項目2 ②AUV複数運用手法等の技術開発 (JAMSTEC)【非公開】
- 資料2-10 実施項目2 ③ROVによる高効率海中システムの開発 (JAMSTEC)【非公開】
- 資料2-11 実施項目3 ②ケーブル式観測システムの開発 (JAMSTEC)【非公開】
- 資料3-1 戦略策定タスクフォース設置について【非公開】
- 資料3-2 管理法人知財委員会報告【非公開】
- 資料4-1 プログラムディレクターによる自己点検【非公開】
- 資料4-2 研究代表者による年度末自己点検【非公開】
- 資料4-3 平成28年度計画書【非公開】

- 参考資料 1 SIP 次世代海洋資源調査技術 推進委員会 構成員名簿
- 参考資料 2 SIP 次世代海洋資源調査技術 推進委員会（第6回）議事要旨
- 参考資料 3 次世代海洋資源調査技術研究開発計画（修正案）【非公開】
- 参考資料 4 年間スケジュール【非公開】

6. 議事要旨

議事に先立ち、久間議員から挨拶があった。

- ・SIP で取り組んだ内容は実用化・事業化される必要があり、日本の産業競争力を強化することが大切である。基礎研究や人材育成のみに取り組むのはよくない。
- ・2年間で既に100億円超の予算を付けている。投資額に応じた社会への影響を与えてほしい。
- ・SIPは残り3年3か月しかない。課題内の個々の取り組みの加速や中止等のマネジメントは前倒しで実施してほしい。
- ・SIPは第5期科学技術基本計画でも中核に位置付けられている。昨今の日本の産業はハードウェア開発が主流だった。システムやソフト部分も強化したほうがよい。
- ・予算配分は産業的価値や研究開発の進捗に応じて決定する。参加している研究支援者も含む全研究者に意識を共有してほしい。加えて、SIP終了時のアウトプットと研究開発の進捗を踏まえて、来年度どのように進めていくのかについて、説明がほしい。

(1) 次世代海洋資源調査技術シンポジウム開催報告

資料1-1に基づき、管理法人である JAMSTEC 菊田オブザーバーから説明があった。

(2) 調査検討ワーキンググループ報告

1) 実施項目 1 海洋資源の成因に関する科学的研究 (JAMSTEC)

資料2-1に基づき、JAMSTEC 鈴木オブザーバーから説明があった。

2) 実施項目 2 ①海洋資源調査システム・運用手法の開発 (J-MARES)

資料2-2に基づき、J-MARES 浅川オブザーバーから説明があった。

3) 実施項目 2 ②AUV複数運用手法等の技術開発 (海技研)

資料2-3に基づき海上技術安全研究所 田村委員より説明があった。

4) 実施項目 2 ③ROVによる高効率海中作業システムの開発 (港空研)

資料2-4に基づき港湾空港技術研究所 吉江オブザーバーから説明があった。

5) 実施項目 3 ①海洋生態系観測と変動予測手法の開発 (JAMSTEC、国環研)

資料2-5に基づき JAMSTEC 山本オブザーバーから説明があった。

6) 以下の研究開発について、担当している各委員およびオブザーバーから概要報告があった。

- ・実施項目 2 ④衛星を活用した高速通信技術の開発 (情通機構)
情報通信研究機構 豊嶋オブザーバー
- ・実施項目 1 海洋資源の成因に関する科学的研究 (産総研)
産業技術総合研究所 池原委員
- ・実施項目 2 ①海洋資源調査システム・運用手法の開発 (海洋調査協会)
一般社団法人海洋調査協会 久保田オブザーバー
- ・実施項目 2 ②AUV複数運用手法等の技術開発 (JAMSTEC)
JAMSTEC 吉田オブザーバー

- ・実施項目 2 ③ROVによる高効率海中システムの開発（JAMSTEC）
JAMSTEC 村島オブザーバー
- ・実施項目 3 ②ケーブル式観測システムの開発（JAMSTEC）
JAMSTEC 川口オブザーバー

(3) 戦略策定タスクフォースおよび管理法人知財委員会報告

資料3-1に基づき浦辺 PD から報告あった。

続いて、資料3-2に基づき JAMSTEC 下田代オブザーバーから報告があった。

(4) 年度末評価および平成 28 年度計画について

資料4-1に基づき浦辺 PD より説明があった。

最後に、久間議員より本委員会の講評により閉会した。

以上